博物館コミュニケーション論 (L)

単位数 / Credit

担当者 / Instructor

井守 徳男、島田 康寛、宮川 禎一

#### 授業の概要 / Course Outline

博物館・美術館の伝統的なものや最新のものの略歴と現状について授業するとともに、博物館・美術館の目的、役割、および将来像について考える。

#### 到達目標 / Attainment Objectives

博物館・美術館の現状を具体的に認識し、将来像を考える基礎となる知識を獲得する。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

博物館学関係の科目

#### 授業スケジュール / Course schedule

#### テーマ / Theme

# 【キーワード / Key Word】

第1回:博物館とは(担当:宮川)

第2回:博物館の歴史(担当:宮川)

第3回:博物館の未来(担当:宮川)

第4回:特別展覧会を企画する(担当:宮川)

第5回:展覧会図録をつくる(担当:宮川)

第6回:考古博物館を創る(担当:井守)

第7回:地域博物館の役割と事業展開(担当:井守)

第8回:新スタイル参加体験型博物館の展示と体験学習(担当:井守)

第9回:兵庫県立考古博物館をみる(担当:井守)

第10回:兵庫県立考古博物館のハンズオン展示を体験する(担当:井守)

第11回:近現代美術史の概略(担当:島田)

第12回:「もの」としての近現代美術作品(担当:島田)

第13回:近現代美術作品修復の現場 日本画(担当:島田)

第14回:近現代美術作品修復の現場 洋画(担当:島田)

第15回:近現代美術館の現場(担当:島田)

#### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)/ End of Semester Examination	0%	
(written)	0 %	
レポート試験 / Report Examination	70%	担当者ごとに小レポートを提出。
平常点評価(15 回の授業中に実施するテスト・レポート	200/	
を含む)/Continuous Assessment	30%	設定したテーマについて、適切に議論されていること。 

## 備考 / Note

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

備考 / Note

## 参考書 / Reference Books

書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

## 備考 / Note

授業内で適宜指示する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

画像メディア特論 2 (00)

単位数 / Credit

担当者 / Instructor 徐 剛、陳 延偉

#### 授業の概要 / Course Outline

The objective of the course is to introduce students to the basic issues involved with pattern recognition and image-based rendering. This course will be mainly focused on linear discriminant functions, Bayes-theory, unsupervised learning, PCA and LDA based feature selections, panoramic image composition, quick-time VR, plenoptic function, light field, etc. In the latter half of the course, students will be divided into a few groups, each group coding a part of a panoramic stitching program.

#### 到達目標 / Attainment Objectives

\_\_

Once completing the course, the students should have enough background knowledge to conduct research in the related areas.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

Some basic knowledge on image processing and computer graphics, good programming skills and mathematical background. This course will be given in English only.

## 授業スケジュール / Course schedule

#### テーマ / Theme

#### 【キーワード / Key Word】

- (1): Introduction to Pattern Recognition
- (2): Linear discriminant functions

【キーワード】Prototype, Linear discriminant function, Perceptron

(3): Bayes-Theory

【キーワード】A priori probability, Likelihood, Posteriori Probability, Bayes Theory

(4): Unsupervised learning

【キーワード】K-means clustering, Fuzzy k-means clustering

(5): PCA-based feature selection

【キーワード】Principal component analysis

(6): LDA-based feature selection

【キーワード】Fisher linear discriminant, Multiple linear discriminant

- (7): Presentations of practical excises in English
- (8): Introduction to image-based rendering and panoramic image stitching
- (9): Camera model, projection, rotation and translation
- (10): Corner detection, matching, homography and image stitching
- (11): Coding, questions and answers
- (12): Coding, questions and answers
- (13): Coding, questions and answers
- (14): Presentations of experimental results in English
- (15): Review and summary

# (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

#### (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

The students will be required to read selected papers, come to the class, implement the presented algorithms and evaluate strengths and shortcomings.

# 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)/ End of Semester Examination	0%	
(written)	0 %	
レポート試験 / Report Examination	30%	reports and coding results
平常点評価(15 回の授業中に実施するテスト・レ	70%	Presence at the class, participation in coding and
ポートを含む)/Continuous Assessment	70%	presentation

#### 備考 / Note

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

#### 教科書 / Textbooks

書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

#### 備考 / Note

Selected Readings from journals and conference proceedings

#### 参考書 / Reference Books

書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

## 備考 / Note

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本文化研究(講義) V (LA)

単位数 / Credit

担当者 / Instructor

赤間 亮、稲葉 光行、川嶋 將生、木立 雅朗、金田 章裕、杉 橋 隆夫、THAWONMAS RUCK、冨田 美香、中谷 友樹、八村 広三 郎、細井 浩一、前田 亮、矢野 桂司、和田 晴吾

#### 授業の概要 / Course Outline

文部科学省グローバル COE「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)では、21世紀 COE により蓄積した有形・無形文化財のデジタルアーカイブを活用して人文科学研究の深化をさらに進め、デジタル・ヒューマニティーズに基づいて、世界レベルでの共有と活用・流通を推進することを目的としています。

デジタルアーカイブは、世界に分散・散在している文化・芸術コンテンツの統合を実現する。文書・画像・音声・動画・モーションなどの異なる分野のコンテンツを情報処理技術により融合化し、他機関のDBも含めた有機的な関連付けによって、研究資料の質・量両面での環境革命を起こし、それによる研究内容の質的高度化につなげ人文科学研究の新しい視座を与えます。そして、地理情報システム(GIS)技術によって、異なる文化・芸術コンテンツの時・空間上でのコンテンツの可視化と重層化をさらに進めます。また、Web2.0 などの双方向型ネットワーク環境を基盤に、より効果的な情報の公開・共有・活用が行われる研究ポータルを実現します。

本講義では、その具体的な実践内容を、本拠点の事業推進担当者を中心にリレー形式で、教授いたします。

#### 到達目標 / Attainment Objectives

人文科学と情報科学の融合・連携による新しい学問領域である、デジタル・ヒューマニティズの内容を理解する。

なお、講義担当者の都合により講義日程が変更になる場合があります。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義は、日本文化デジタル・ヒューマニティーズ教育プログラムの科目でもある。合わせて、本教育プログラムの科目を履修することを勧める。 また、毎週火曜日の6限にアート・リサーチセンターで開催されている GCOE セミナーへの参加も勧める。

日本文化デジタル・ヒューマニティーズ教育プログラム

http://www.ritsumei.jp/humanities/humanities03\_j.html

#### 授業スケジュール / Course schedule

#### テーマ / Theme 【キーワード / Key Word】

2(4/14):日本古典資料の可視DB化の試み【キーワード】『兵範記』『閑谷集』 平安貴族、電子図書館、GIS、行動と見聞(杉橋 隆夫)

3(4/21):調整中

4(4/28):京都の伝統工芸と考古学的手法 【キーワード】京焼、友禅、協業 (木立 雅朗)

5(5/12): TBC 芸能史研究とDH 【キーワード】興行資料、浮世絵、デジタルアーカイブ (赤間 亮)

6(5/19): GISとGISC 【キーワード】GIS、バーチャル時・空間 (矢野 桂司)

7(5/26): 古代宮都研究と GIS 【キーワード】歴史 GIS、景観史、環境史 (河角 龍典)

8(6/2):人文学、特に歴史地理学とdigital humanities【キーワード】人文学、歴史地理学、文化、景観、風土 (金田 章裕)

9(6/9):無形文化財のデジタル・アーカイブ【キーワード】モーションキャプチャ、舞踊、コンピュータ・グラフィックス (八村 広三郎)

10(6/16): 漫画及び物語の自動生成 【キーワード】インタラクション、コマ割り、Propp の物語構造 (Ruck Thawonmas)

11(6/23): CG・可視化の技術で日本文化を観る【キーワード】3次元 CG、環境シュミレーション、町並み、自動生成 (田中 覚)

12(6/30):「触れて視る」日本文化デジタルミュージアムの構築【キーワード】デジタルミュージアム、3次元 CG モデリング, 視触覚レンダリング (田中 弘美)

13(7/7):デジタル図書館・アーカイブのための情報技術 【キーワード】情報検索、メタデータ、電子情報の長期保存 (前田 亮)

14(7/14):次世代Web技術【キーワード】Web2.0、セマンティックWeb(稲葉 光行)

15(7/21): 仮想世界 (Virtual Worlds)の動向とDH【キーワード】メタバース、セカンドライフ、アバター・コミュニケーション

(細井 浩一)

#### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

# 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

1-40-400   1-40-400		
種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)/ End of Semester Examination	0%	
(written)	0 98	
レポート試験 / Report Examination	50%	
平常点評価(15 回の授業中に実施するテスト・レポート	50%	
を含む)/Continuous Assessment	50%	

## 備考 / Note

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

『バーチャル京都』 矢野桂司・中谷友樹・磯田弦編 ナカニシヤ出版 4779501008

備考 / Note

## 参考書 / Reference Books

書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

備考 / Note

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

講義担当者の都合により講義日程が変更になる場合があります。

# 科目名・クラス / Course Title, Class<br/>統計解析演習 I (L)単位数 / Credit<br/>2担当者 / Instructor<br/>足立 浩平

#### 授業の概要 / Course Outline

基本的な記述統計法を学んだ後,群間の平均値の比較を目的とした推測統計法を学ぶ.前者には,代表値,散布度,相関の指標,および,データの標準化などが含まれる.後者には,2 群の平均値差の検定をはじめ,種々の実験デザインに合わせた分散分析法が含まれる.

記述統計法は,理科系だけでなく,文科系大学院にとって重要な方法論であり,また,推測統計法,その中でも,分散分析法は,特に実験系の心理 学研究をはじめ,系統的に収集されたデータの平均値を群間で比較する際に必須となる.

#### 到達目標 / Attainment Objectives

原理のエッセンスを理解して、ソフトウェアを使った実際のデータ解析も行えるようになること、

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

#### 授業スケジュール / Course schedule

#### テーマ / Theme

# 【キーワード / Key Word】

- 1: データと分布
- 2:代表値と散布度
- 3:標準得点
- 4:共分散と相関係数
- 5:確率と確率分布
- 6:母集団と標本
- 7:標本分布
- 8:統計的仮説検定とは
- 9:区間推定とは
- 10:相関係数の検定
- 11:平均値の差の検定
- 12:分散分析とは
- 13:分散分析と多重比較
- 14:少し複雑な分散分析
- 15:度数・順位データの検定

#### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)/ End of Semester Examination	0%	
(written)	090	
レポート試験 / Report Examination	50%	
平常点評価(15 回の授業中に実施するテスト・レポート	50%	
を含む)/Continuous Assessment	30%	

備考 / Note

# 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

『心理統計学』 繁桝算男・大森拓哉・橋本貴充 培風館 978-4-563-05894-4

備考 / Note

## 参考書 / Reference Books

書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

備考 / Note

# 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

科目名・クラス / Course Title, Class単位数 / Credit担当者 / Instructor知識マネジメント論 (GP)2稲葉 光行

#### 授業の概要 / Course Outline

本講義では、人文・社会科学領域で用いられる知識資源を、効率よく整理・保存・共有するための Web 技術について学ぶ。講義の前半では、Web上で公開されているデジタルアーカイブの動向や、セマンティック Webなどの知識管理技術の基礎について学ぶ。その後、各自の構想に基づいて、Web公開を想定したデジタルアーカイブのデザインと実装に取り組む。最後に、各自の成果や開発経験を基に、人文・社会科学領域における知識資源の管理と共有のあり方や、次世代Web技術の展望について議論する。

#### 到達目標 / Attainment Objectives

- ・Web上での知識資源管理技術の動向に対する理解
- ・Web上での知識資源管理に関する基礎技術の習得
- ・知識資源管理のための次世代Web技術に関する理解

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

#### 授業スケジュール / Course schedule

## テーマ / Theme

#### 【キーワード / Key Word】

- 1: Web の歴史と知識管理技術の動向
- 2:知識資源管理技術の基礎(1)
- 3:知識資源管理技術の基礎(2)
- 4:知識資源管理技術の基礎(3)
- 5:知識資源管理技術の基礎(4)
- 6:知識資源管理システムのデザイン(1)
- 7:知識資源管理システムのデザイン(2)
- 8:知識資源管理システムのデザイン(3)
- 9:知識資源管理システムのデザイン(4)
- 10:知識資源管理システムの実装(1)
- 11:知識資源管理システムの実装(2)
- 12:知識資源管理システムの実装(3)
- 13:知識資源管理システムの実装(4)
- 14:課題プロジェクト発表(1)
- 15:課題プロジェクト発表(2)

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・講義や実習内容の詳細については、各受講生の専門領域、興味・関心・スキル、進捗状況に合わせて、インタラクティブに調整を行っていく。
- ・毎回、情報教室において、講義と実習を組み合わせた形で進める。

# 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)/ End of Semester Examination	0%	
(written)	090	
レポート試験 / Report Examination	0%	
平常点評価(15 回の授業中に実施するテスト・レポート		日常点(講義への参加・貢献):50%
を含む)/Continuous Assessment	100%	その他 (課題プロジェクト): 50%

#### 備考 / Note

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

#### 教科書 / Textbooks

書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

#### 備考 / Note

講義および Web 上で配布するハンドアウトを使用する。

#### 参考書 / Reference Books

書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

#### 備考 / Note

講義中に指示する。

# 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

知識マネジメント論ホームページ:

http://www.ritsumei.ac.jp/~inabam/class/km/

単位数 / Credit

担当者 / Instructor

デジタル・アーカイブ I (L)

高瀬 裕

#### 授業の概要 / Course Outline

デジタルアーカイブとビジュアライゼーション

文化遺産の3次元デジタル化を中心とするデジタルアーカイブを主要テーマとして、事例のスタディをまじえながら、最新のデジタル化技術、ビジュアライゼーション技術(CG、VR、インターネット)などを学び、各自の専門分野への利用について考察する。

#### 到達目標 / Attainment Objectives

授業で学んだデジタル化技術、ビジュアライゼーション技術を各自が設定した研究テーマに活用する手法等を考察し、かつ、その研究テーマと手法についてビジュアルで効果的なプレゼンテーションを行う能力を<u>修得する。</u>

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に無し。

パソコンでオフィスおよびパワーポイントのソフトを使えることが必要。

## 授業スケジュール / Course schedule

#### テーマ / Theme

#### 【キーワード / Key Word】

第1~2回目:コンピュータとビジュアライゼーション

【キーワード】コンピュータ、ビジュアライゼーション、メディア、情報

第3~4回目:デジタルアーカイブ

【キーワード】デジタルアーカイブ、文化遺産、保存、知的所有権

第5~6回目:文化遺産の3次元デジタル化

【キーワード】文化遺産、復元モデリング、レーザー計測、デジタル写真測量

第7~8回目:コンピュータグラフィックス/CAD

【キーワード】CAD、コンピュータグラフィックス、モデリング、レンダリング、アニメーション

第9~10回目:バーチャルリアリティ/複合現実感/Web3D

【キーワード】バーチャルリアリティ、複合現実感、Web3D、Web3D-GIS

第 11~12 回目:空間のデジタル情報

【キーワード】空間情報、デジタル写真測量、航空レーザー計測、3次元都市モデル、京都バーチャル時・空間

第 13~14 回目: コンテンツ制作

【キーワード】コンテンツ産業、コンテンツ制作

第 15 回目:デジタルアーカイブとビジュアライゼーションの総括

#### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業実施詳細: 水曜と木曜の3限および4限の集中講義(各月1回)

実施月日:

4月15日(水) および 4月16日(木)

5月13日(水) および 5月14日(木)

6月10日(水) および 6月11日(木)

7月15日(水) および 7月16日(木)

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)/ End of Semester Examination	0%	
(written)	0%	
レポート試験 / Report Examination	0%	
平常点評価(15 回の授業中に実施するテスト・レ	100%	授業における意見発表等の積極性、レポートにおける理解度、および
ポートを含む)/Continuous Assessment	100%	プレゼンテーションの質を評価対象とする。

## 備考 / Note

授業期間中に試験に代わるレポート、プレゼンテーションなどを実施する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

備考 / Note

講義の中で推奨する。

## 参考書 / Reference Books

書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

## 備考 / Note

講義の中で推奨する。

# 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

科目名・クラス / Course Title, Class	単位数 / Credit	担当者 / Instructor
自然言語処理特論 (00)	2	福本 淳一、前田 亮

#### 授業の概要 / Course Outline

本講義は,自然言語処理に関する基礎的な理論やモデルおよび応用技術について学ぶ.前半では,テキスト情報を対象とした情報検索の手法について習得し,後半では,自然言語処理の応用技術である質問応答技術及び情報抽出技術について習得する.

#### 到達目標 / Attainment Objectives

- ・自然言語処理に関する英語の教科書および資料による講義を通じて、自然言語処理の基礎的な理論やモデルを習得する、
- ・情報検索システムで用いられる各種手法を理解し,ある検索質問からどのように検索結果を得ているかを説明できる.
- ・情報検索システムの検索精度の評価方法について理解し、説明できる.
- ・質問応答システムの基本的な構成を理解し,説明できる.
- ・質問応答システムの各モジュールの仕組を理解し,ある質問文がどのようにして回答を得ているのかについて説明できる.
- ・情報抽出技術について基本的な手法を理解し、説明できる.

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

#### 授業スケジュール / Course schedule

## テーマ / Theme 【キーワード / Key Word】

- 第1回目:自然言語処理の基礎
- 第2回目:IR1: Boolean retrieval 【キーワード】inverted index, postings list, Boolean query, query optimization
- 第3回目:IR2: The term vocabulary & postings lists 【キーワード】tokenization, stop words, stemming, phrase query
- 第4回目: IR3: Dictionaries and tolerant retrieval 【キーワード】wildcard query, k-gram index, spelling correction
- 第5回目:IR4: Index construction & Index compression 【キーワード】 block merge indexing, distributed indexing, dictionary compression
- 第6回目: IR5: Scoring, term weighting & the vector space model [キーワード] term weighting, tf-idf, cosine similarity
- 第7回目: IR6: Computing scores in a complete search system 【キーワード】 champion lists, tiered indexes, query-term proximity
- 第8回目:IR7: Evaluation in information retrieval 【キーワード】test collections, precision, recall, F measure, mean average precision
- 第9回目:QA1: An overview of question answering system 【キーワード】open-domain question answering, system structure
- 第 10 回目:QA2: Question sentence analysis【キーワード】keyword extraction, question type
- 第 11 回目:QA3: Answer type determination 【キーワード】answer types, answer type hierarchy
- 第 12 回目:QA4: Document retrieval and passage extraction 【キーワード】information retrieval, passage retrieval, relevance terms
- 第13回目:QA5: Information extraction for answer extraction【キーワード】overview of information extraction
- 第 14 回目: QA6: Information extraction 【キーワード】 named entity, extraction patterns
- 第 15 回目:QA7: Answer extraction 【キーワード】identification of answer candidates, answer ranking

#### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

#### (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

第1回目で自然言語処理の基礎について解説する.第2回目以降は,前半(第2~8回)と後半(第9~15回)に分け,それぞれのテーマに関する英語の教科書および資料を用いて講義を行う.

### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

TWO THE TOTAL TH		
種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)/ End of Semester Examination	0%	
(written)	0 98	
レポート試験 / Report Examination	60%	前半と後半で各1回(計2回)のレポートを課し,調査内容,
	60%	考察のポイントや深さを総合的に評価する.
平常点評価(15 回の授業中に実施するテスト・レポート		講義への積極的な参加状況として,質問回数,質問内容により
を含む)/Continuous Assessment	40%	評価する . 4/5 以上の授業に出席してレポートを提出した者の
		みを成績評価の対象とする.「出席点」の加点は行なわない.

## 備考 / Note

2回のレポート提出を単位取得の条件とする。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

#### 教科書 / Textbooks

## 書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

『Introduction to Information Retrieval』 Christopher D. Manning, Prabhakar Raghavan and Hinrich Sch?tze Cambridge University Press 0521865719 第2~8回で用いる(http://www.informationretrieval.org/から PDF を入手可能)

『Open-Domain Question Answering from Large Text Collections』 Marius Pasca CSLI Publications 1575864282 第9~15回で用いる

#### 備考 / Note

後半に関しては、教科書は指定するが別途資料を配布する。

#### 参考書 / Reference Books

#### 書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

- 『Modern Information Retrieval』 Ricardo Baeza-Yates and Berthier Ribeiro-Neto Addison Wesley 978-0201398298 第2~8回の参考書
- 『情報検索と言語処理』 徳永 健伸 東京大学出版会 978-4-13-065405-0 第2~8回の参考書
- 『自然言語処理』 天野 真家,石崎 俊,宇津呂 武仁,成田 真澄,福本 淳一 オーム社 978-4-274-20465-4

## 備考 / Note

# 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者 / Instructor

日本文化研究(講義)I (LB)

2

単位数 / Credit

千田 稔

#### 授業の概要 / Course Outline

テーマ「『場』の記憶装置とアーカイブ 日本先史時代~近世

思想や歴史あるいは文学、芸能においても、「場」がなくては成立しない。もっとも基本的な人間の行為を支える「場」の記憶を多分野の資料(写真・絵画・地図・テキスト・口承・音声など)の中からよびおこす方法について試みる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

諸分野の研究領域を統合しながら、新たな研究領域を見出すためのプロセスを探究すること。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

人文・社会系の諸分野で各自関心のある科目

#### 授業スケジュール / Course schedule

#### テーマ / Theme

## 【キーワード / Key Word】

第1回:「場」と文化をめぐって 講義の目的と概要

【キーワード】「場」 文化 風土

第2・3回:文化の生成と自然的「場」

【キーワード】自然 植生 照葉樹林 農業 食文化

第4・5・6回:王権の成立と「場」

【キーワード】王権伝承 神話 高千穂 山 海 古墳 遺跡 出雲 邪馬台国 三輪山 東アジア

第7・8・9回:畿内」という「場」

【キーワード】 畿内 宇宙観 宮都 大和川 淀川 交通路 六国史 カミ 天皇 仏教 大極殿

第10・11回:関東と関西における「場」の比較論

【キーワード】 京都 鎌倉 名所 街道 武家 公家 御所 幕府

第 12・13・14 回:江戸と上方における都市文化生成の「場」

【キーワード】 江戸、上方 大阪 京都 衣食住 芸能

第15回:幕末における変革の「場」

【キーワード】長崎 京都 江戸 古写真

#### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

#### (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

スライド、配布コピーなどを併用した講義

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)/ End of Semester Examination	0%	
(written)	0 78	
レポート試験 / Report Examination		研究の諸領域を統合して、「場」の問題を考える自由論題形式
	60%	のレポートを求める。執筆形式・分量になどについては、授業
		中に指示する。
平常点評価(15 回の授業中に実施するテスト・レポート	40%	授業中の質疑応答・課題提出などによる。
を含む)/Continuous Assessment	40%	技未中の貝េが心台・林起灰山なくによる。

備考 / Note

# 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

#### 教科書 / Textbooks

書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

備考 / Note

## 参考書 / Reference Books

書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

#### 備考 / Note

授業中に適宜指示する

# 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文化遺産保存計画論 (00)

単位数 / Credit

担当者 / Instructor 益田 兼房、山崎 正史

2

#### 授業の概要 / Course Outline

長い歴史のなかで形成され保存されてきた建築土木遺産は、現在では世界遺産条約や我が国の文化財保護法の対象として保護され、現代社会のなかで不可欠な文化的意味を持っている。しかし、この文化遺産保護という仕組みができたのは、近代という時代が要請したからで、19世紀半ばの国民国家の形成と深く関わっている。一方、成熟した市民社会となった現代では、生活の質の向上と関わる都市計画の重要な政策の一部ともなり、また特色ある町づくりの貴重な資源ともなっている。文化遺産とは何か、我が国の世界文化遺産を中心に、社会のなかでの意味を考えてみたい。

#### 到達目標 / Attainment Objectives

- ・文化遺産保護の基本的な用語概念制度がわかり保存の問題を理解できる。
- ・国際社会における世界遺産の仕組みが具体事例を通じて理解できる。
- ・都市計画や建築計画等に文化遺産保存計画を組み込む基礎的理解ができる。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

#### 授業スケジュール / Course schedule

テーマ / Theme

【キーワード / Key Word】

4/7: 文化財保護制度の形成と現代における運用

【キーワード】文化財、保護

4/14: 歴史的建造物の保存修復とオーセンティシティ

【キーワード】歴史的建造物、保存修復、オーセンティシティ

4/21:世界遺産「古都京都の文化財」「古都奈良の文化財」

【キーワード】世界遺産、京都、奈良、緩衝地帯、環境調整区域

4/28: 歴史的町並み集落をどう守るか その調査と保存

【キーワード】伝統的建造物郡保存地区、保存計画、歴史的地区環境整備街路事業

5/12:世界遺産と防災「白川郷」・「古都京都」

【キーワード】国際社会、国連防災世界会議、防災、地震火災

5/19・5/26: 演習 1: 京都の文化財の保存状況調査評価、報告作成

【キーワード】歴史的建造物・庭園、保存状況、歴史資料の比較

5/26・6/2:演習2:歴史的町並み調査評価、報告作成

【キーワード】伝統的建造物群保存地区、保存計画、歴史的地区環境整備街路事業

6/9:世界遺産条約の制度と運用 1/日本の加盟とアンコール

【キーワード】世界遺産、条約、作業指針、世界遺産登録、国際協力

6/16:世界遺産条約の制度と運用2/評価基準等

【キーワード】条約指針、評価基準、緩衝地帯

6/23:世界遺産「法隆寺地域の仏教建造物」・「姫路城」

【キーワード】人類共通の遺産、解体修理

6/30:世界遺産 日光の社寺/厳島神社/原爆ドーム

【キーワード】景観保全、保存技術

7/7:世界遺産 白川郷五箇山の合掌造り集落/琉球王国のグスク及び関連遺産群/無形遺産

【キーワード】危機に瀕する世界遺産、無形遺産条約

7/14:試験/文化遺産保護と世界遺産

# (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教室での講義が中心で、資料を配付し、パワーポイントで具体的な建築物などを示しながら説明する。

なお、一部は演習とし、国際防災研修プログラム傍聴などしてその内容や課題について報告を作成、または配付資料を参考に京都や奈良の世界遺産 保護に関する報告を作成する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)/ End of Semester Examination	60%	文化遺産保護に関する用語・概念・制度を主に英語を通して理
(written)	00%	解できたか。
レポート試験 / Report Examination	0%	
平常点評価(15 回の授業中に実施するテスト・レポート	40%	   講義への出席と態度、演習の報告レポート作成あり
を含む)/Continuous Assessment	40%	講義への山市と恋反、演首の報音レが一下作成のリ 

#### 備考 / Note

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

京都や奈良などの、世界遺産である歴史的建造物やその環境を、自分で実際に見学することが望ましい。

#### 教科書 / Textbooks

#### 書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment 備考 / Note

## 参考書 / Reference Books

#### 書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

『世界遺産の保存 その歴史と現在』 ユッカ・ヨキレット アルヒーフ BKC 図書館にあり、2005 年

『歴史を未来につなぐまちづくり・みちづくり』 新谷洋二他 学芸出版社 2006年1月刊行

#### 備考 / Note

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://whc.unesco.org/pg.cfm

http://www.international.icomos.org/world\_heritage/index.html

科目名・クラス / Course Title, Class	単位数 / Credit	担当者 / Instructor
日本文化研究(演習)I (LB)	2	千田 稔

#### 授業の概要 / Course Outline

大久保喬樹著『日本文化論の名著入門』(角川選書 2008年)をテキスト(コピー配布)にして、各受講生は、関心のある部分を担当して、日本文化 論を批判的に検討し、受講生が互いに議論する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

日本文化を論じるために、受講生が独自の視点をもてることを目的とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

人文・社会系の諸分野で各自関心のある科目

# 授業スケジュール / Course schedule

#### テーマ / Theme

# 【キーワード / Key Word】

第1回:大久保喬樹著『日本文化論の名著入門』の紹介

【キーワード】日本文化論

第2回~第14回:受講生が担当した箇所の報告と、全員による討論

第15回:日本文化に対するアプローチについて全員で討論。

# (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

受講生の口頭発表と討議

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)/ End of Semester Examination	0%	
(written)	0%	
レポート試験 / Report Examination	0%	
平常点評価(15 回の授業中に実施するテスト・レポート	100%	日常的な授業に対する取組状況
を含む)/Continuous Assessment	100%	口頭による報告と、討議における発言内容

備考 / Note

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日本文化論についての著作をできるだけ読むこと

#### 教科書 / Textbooks

#### 書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

『『日本文化論の名著入門』』 大久保喬樹著 角川選書 2008年

備考 / Note

# 参考書 / Reference Books

書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

# 備考 / Note

授業中に適宜指示する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

科目名・クラス / Course Title, Class 担当者 / Instructor 単位数 / Credit 地理情報学研究Ⅰ(講義) (L)、 特殊講義Ⅰ (CD)

政策科学研究特別講義 (PE)

LONGLEY PAUL

#### 授業の概要 / Course Outline

Along with the explosive growth of GIS over the last decade, a considerable increase in the availability and use of digital sources of spatial data has occurred. Nowhere is this more apparent than in the development and refinement of geodemographics? small area measures of social and economic conditions that are useful for the delivery of private and public goods and services. Producing new and useful information from spatial data requires a thorough understanding of their limitations and the methods used to process them.

This course examines the scientific methods used to derive useful information, and geodemographics in particular, from spatial data. A companion to the books Geographic Information Systems and Science, Second Edition published by John Wiley & Sons Ltd and Geospatial Analysis, Second Edition published by Troubador, the course is designed to present GIS concepts through exercises and examples? with a particular emphasis upon the theory and practice of geodemographics. Students explore GIS theory related to the visualization, measurement and transformation of spatial data. An underlying theme is that uncertainty is an inherent characteristic of geodemographic data infrastructures: students learn how to identify uncertainty, measure it, and live with it.

An important new development in socio-economic GIS is the development of geo-genealogy , which examines the geographic distribution, present and historic, of family names. This course will examine the present day distribution of selected Japanese family names, and examine some of the insights that this offers for understanding migration patterns and economic structure.

## 到達目標 / Attainment Objectives

Those completing this course will be able to; ?Describe what spatial data are and how information is derived from them.

- · Identify best practice in the creation of small area indicators of social and economic conditions (geodemographics).
- · Assess the nature of spatial data and techniques of spatial autocorrelation, sampling, and interpolation.
- Understand how uncertainty in spatial data is propagated through the conception, measurement, and analysis of geographic phenomena.
- · Comprehend how GIS-based visualization allows users to derive information, interact with spatial data, and represent attributes and spatial objects.
- Query and measure spatial and other attribute data.
- Perform spatial overlays, interpolation, and density estimations in order to transform spatial data into meaningful information.
- · Produce statistical summaries of spatial data.
- · Assess the uncertainties associated with spatial data.
- Understand how family names analysis contributes to our understanding of geodemographics, with particular reference to Japan.
- · Courses which students are recommended to enroll in, but not required to A basic knowledge of GIS is desirable, but not essential.

【キーワード】Lecture

# 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

#### 授業スケジュール / Course schedule

#### テーマ / Theme 【キーワード / Key Word】

1: Geographic Information: Systems, Science and Study

2: Geodemographics and GIS	【キーワード】Lecture
3: Basics of data and information using ArcGIS 9	【キーワード】Lab
4: Digital representation and geodemographics	【キーワード】Lecture
5: Cartography, map production and geovisualisation	【キーワード】Lab
6: A gallery of geodemographic applications	【キーワード】Lecture
7: Query and measurement	【キーワード】Lab
8: The nature of geodemographic data	【キーワード】Lecture
9: Transformations and descriptive summaries	【キーワード】Lab
10: Uncertainty in GIS	【キーワード】Lecture

11 : An introduction to Anglo Saxon and Japanese geo-genealogy [  $\ddagger$  -  $\mathcal{D}$  -  $\mathcal{F}$  ] Lecture/Lab

12: The geo-geneology of Japanese Surnames

【キーワード】Lab 13: Japanese surnames: data representation, manipulation and analysis (1) 【キーワード】Lab

【キーワード】Lab 14: Japanese surnames: data representation, manipulation and analysis (2) 【キーワード】Lab 15: Final group presentations

# (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Workshop style with equal mix of lectures and computer-based exercises. Students will be given course codes to complete a set of self-paced exercises.

## 成绩证価方法 / Crading Critoria and Mathed of Evaluation

次級計画力法 / Grading Criteria and Method of Evaluation				
種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.		
平常点評価(15 回の授業中に実施するテスト・ レポートを含む)/Continuous Assessment	100%	The students will undertake four lab classes, each assessed by an online quiz at the end. Students are required to get 8 marks out of 10 for the quiz in order to obtain a certificate of satisfactory completion. They can take the test multiple times, so in practice everyone will obtain the four certificates.		

# 教科書 / Textbooks

## 書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

Geographic Information Systems and Science P A Longley, M F Goodchild, D J Maguire, D W Rhind John Wiley and Sons, Chichester, UK 0470870001 pp.512 / 047087001X (paperback)

Geospatial Analysis: a comprehensive guide to principles, techniques and software tools MJ de Smith, MF Goodchild, PA Longley Troubador, Leicester, UK 1905886608 / 9781905886699

#### 備考 / Note

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

www.spatial-literacy.org

http://training.esri.com/Courses/DataInfo9/index.cfm

科目名・クラス / Course Title, Class単位数 / Credit担当者 / Instructor人文科学の主要問題 IV (演習 ) (LA)2関口 博之

#### 授業の概要 / Course Outline

本授業では、前半でコンピュータを活用した人文科学系の研究事例の紹介を行い、後半で人文科学研究へのコンピュータの具体的な利用法について 講義する。

研究事例の紹介では、「講座 人文科学研究のための情報処理 第1巻入門編」(尚学社1998刊)と(社)情報処理学会主催の「人文科学とコンピュータ」シンポジウムの2000年~2008年の論文集を題材として取り扱う。コンピュータの利用法では、同講座の「第5巻 数量的分析編」をテキストとして、収集されたデータから結論を導くために必要となる、統計解析手法について解説する。本講座では演習室のPC上でExcelや統計ソフト「R」を使い、データ統計処理を具体的に行いながら、統計解析手法の理解を深めていく。なお、進行によっては、テキスト処理(第2巻)やデータベース(第3巻)の一部も講義範囲に含める。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・ 各自が行う文系の研究において、計算機を柔軟かつ効果的に活用できるようになること。
- ・ 統計理論に基づいたデータ解析の考え方を理解すること。

# 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

# 授業スケジュール / Course schedule

#### テーマ / Theme

## 【キーワード / Key Word】

1:オリエンテーション グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティズ拠点」についての説明

【キーワード】COE、デジタル・ヒューマニティズ

2~4:「人文科学とコンピュータ」研究の動向調査

【キーワード】デジタルアーカイブ、GIS、モーションキャプチャ

5~15:コンピュータを用いたデータ解析手法

【キーワード】統計分析、オントロジー、データマイニング

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法	/ Grading	Criteria and Method of Evaluation
--------	-----------	-----------------------------------

類点 / Paragraphana     河広甘油佐 / Cup literal Cubb mit a Angle		
種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)/ End of Semester Examination	0%	
(written)	0 70	
レポート試験 / Report Examination	0%	
平常点評価(15 回の授業中に実施するテスト・レポート	100%	   出席・発表内容・討議への参加状況等を考慮して評価する。
を含む)/Continuous Assessment	100%	山肺・光衣内台・討議への参加仏爪寺を与慮して計画する。 

## 備考 / Note

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

#### 書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』 (社)情報処理学会 購入困難につき、必要部分はWeb で参照できるようにします。 『講座 人文科学研究のための情報処理』 及川昭文(監修) 尚学社 4-915750-57-4 廃刊につき、同上のサポートを行う予定。

備考 / Note

## 参考書 / Reference Books

書名・著者・出版社・ISBN コード・備考 / Title・Author・Publisher・ISBN Code・Comment

備考 / Note

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference